

里山と息づく動植物

この分野は、「緑」に関わる要素のうち、里山とそこに息づく動植物を対象としています。里山とは、様々な人間の働きかけを通じて形成された樹林地を指し、多様な環境保全機能²⁰を有しています。

こんな環境や社会にしたい！！



環境まちづくりビジョン

【東部丘陵】

自然豊かな、まとまりのある緑地として
“東部丘陵自然公園”がある

【里山・生態系】

湧き水があり昆虫や小動物に会い遊べる
里山が守られて、市民が自主管理している

【自然体験拠点】

楽しくみんなが集える自然について
共有できるネイチャーセンターがある



環境指標と数値目標

(詳細は資料編参照)

No.	指標名	現状値 [H.14]		短期目標 [H.20]	長期目標 [H.35]
C 1	森林面積	6 2 1	h a [H.15]	現状維持をめざす	現状維持をめざす
C 2	里山保全活動拠点数	3	箇所	5	1 0
C 3	日進自然遊歩道延長	—	km	1 5	3 0

[検討・把握する環境指標] 指標生物の生息・生育数、森林に占める竹林の占有率

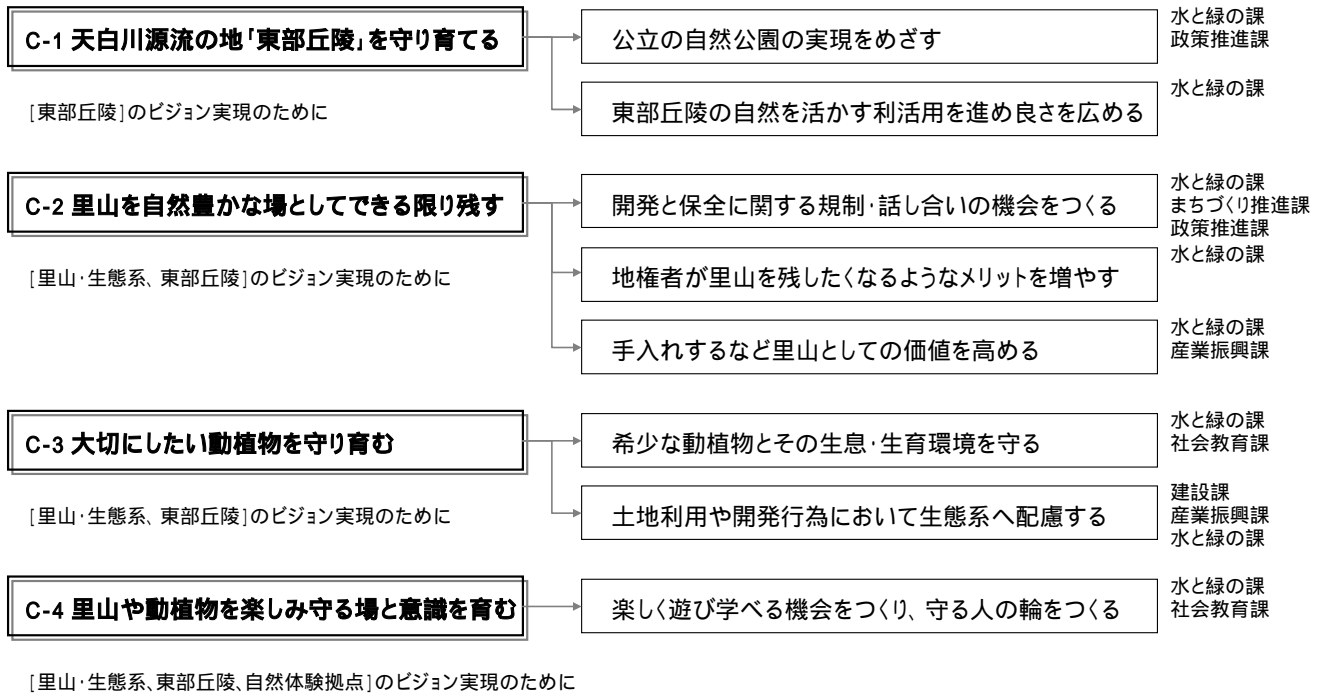
²⁰ 里山（森林）の有する環境保全機能として、二酸化炭素吸収、土壌浸食・崩壊防止、洪水緩和、水資源貯留、水質浄化、保健・レクリエーション、野生鳥獣保護、大気浄化などがある。

「環境まちづくりビジョン」を実現するためにこうしていこう！



環境まちづくりプログラム

施策の体系



C-1 天白川源流の地「東部丘陵」を守り育てる

市内の最もまとまった緑で、天白川の源流があり、里山固有の希少種をはじめ多くの動植物の生息・生育地である「東部丘陵」を守り、人と自然がふれあえる場として育てていきます。

[施策メニュー]

市独自の自然環境を守るための条例づくり、地権者からの買い取り・借り上げ、保全基金の募金
 保全区域の設定と保全施策の検討、東部丘陵の環境保全型自然公園整備
 東部丘陵の自然ガイドブック（仮称）の作成・活用、自然観察できる園路整備、環境保全監視隊の設置、環境基金制度づくり、継続的でゆるやかな公園づくりと利活用方法の市民アイデア募集、公園利用区分の色分け（観察区域・保全区域・健康増進区域）、自然環境に詳しい市民による管理・保全、市民対象のハイキングや観察会の開催、小中学校での四季にわたるハイキング教室、保全のための標語募集、観察会指導員の養成

C-2 里山を自然豊かな場としてできる限り残す

市内には、小規模な里山が点在していますが、開発が進み年々減少していると同時に、残された緑も手入れがされず荒れています。里山は水源かん養や大気浄化などの多様な環境保全機能を担っているため、できる限り残すとともに、自然豊かな場として育てていきます。

[施策メニュー]

里山保全条例、地権者の実態調査、雑木林・竹林の区分け利用、地域別のまちづくり計画における緑確保率の設定、環境アセスメント制度の運用による無秩序な開発による自然破壊の防止
 税制面の特典、緑化基金の設置、森林環境税の導入
 竹林繁茂の防止、里山からの資源利用活用、自然とのふれあいの場づくり、管理運営要領の作成、里山の市民参加による自然公園づくり、地域学習林の整備・活用、松くい虫対策

C-3 大切にしたい動植物を守り育む

市内には東部丘陵を中心として希少な動植物が生息・生育しているほか、野ウサギやカワセミ、クワガタムシといった希少種ではないけれど親しまれる動植物もいます。こうした大切にしたい動植物並びにその生息・生育環境を守り育んでいきます。

[施策メニュー]

レッドデータブック²¹の作成、貴重種の天然記念物指定、外来種規制条例
 絶滅危惧種・希少種等の調査・指定、国天然記念物イタセンパラなど希少淡水魚の保護および種の保全生態系豊かな水路・畦・のり面の整備、鳥獣保護区の指定、湿地に生息する動植物の保護

C-4 里山や動植物を楽しみ守る場と意識を育む

里山を守りたいと思う気持ちは、そこで遊んだり何か得るものがあったりすることから育まれるものです。そのために楽しめる場や機会をつくり、リードする人たちを育んでいきます。

[施策メニュー]

自然観察・ネイチャーウォッチング、里・山・林等を知るための講座、自然の姿・仕組みの体験、クラブト教室、木や植物の名前が分かる表示設置、里山保全リーダーの育成・活用、自然観察指導員の養成、市民ボランティア(組織)の育成、クラブづくり(会員制)、きのこや山菜を採れるような整備・機会創出、ネイチャーセンターの建設、観察団体や研究団体への助成制度、ネイチャー新聞の発行、日進自然マップの作成

²¹ 絶滅のおそれのある野生生物の情報をとりまとめた本のことで、環境省や地方自治体発行のものがある。